

第 15 回 ISO/TC 17/AG (Advisory Group) 国際会議報告

第 15 回 ISO/TC 17/AG 国際会議は、パリでハイブリッド会議として開催され、TC 17 直轄プロジェクトへの対応、TC 17 からのリエゾン関係の見直し、Strategic Business Plan (SBP) の見直し、SC 15 (鉄道レール、レール締結装置、車輪及び輪軸) の課題への対応など、TC 17 の運営についての方針が審議された。

次回は、2026 年 10 月にストックホルムで開催される。なお、足元の TC 17 直轄プロジェクトの審議を行うため、2026 年 5 月に臨時の TC 17 総会を Web 開催することが決定された。

1. 開催日：2025 年 10 月 22 日（水）

2. 開催場所：パリ（フランス、フランス金属機械規格協会）+Web（Zoom）

3. 出席者（敬称略）

議長：Chao Feng（中国）

幹事：玉田（鉄鋼連盟）

委員：日本 [越川（鉄鋼連盟）]、中国、フィンランド*、フランス、ドイツ*、スウェーデン*

関係者：寺澤 [ISO/TC 17 議長（鉄鋼連盟）]

玉田（ISO/TC 17 幹事、AG 幹事兼任）

Baoshi Liu（ISO/TC 17/SC 15 幹事、中国）

計 6 か国、10 名 (*Web 参加)

4. 主な議事

4.1 前回宿題事項の進捗

AG 幹事から、前回 AG 会議での宿題項目の進捗が報告され、内容が確認された。

なお、前回の AG 会議において、TC 17 における SDGs の取り組みは、モデルケースとして SC 16（鉄筋及びプレストレスト用鋼）/WG 14（鉄筋棒鋼・プレストレスト用鋼の持続可能性）で **TR 24870**（鉄筋棒鋼に適用可能な SDGs 認証制度）の制定を進めていくことが確認されたが、SC 16/WG 14 から、欧州での規格制定まで活動を停止したいとの提案が出されており、審議の結果、SC 16 の議論に委ねることが確認された。本件は、11 月 12 日～13 日に開催される SC 16 国際会議で審議される予定である。

4.2 TC 17 幹事レポート

TC 17 幹事から、TC 17 幹事レポートが報告され、内容が確認された。

現在、TC 17 直轄で、4 つの WG 及び 1 つの SG のもと、5 つのプロジェクトが進捗しているが、**DIS 4849-1**（鋼の分類—第 1 部：化学成分に基づく分類）改訂及び **AWI TR 26176**（リサイクル可能な鉄鋼原料）制定について、賛否の意見が多く出されており、TC 17 メンバーによる議論が必要となることが予想されることが指摘された。審議の結果、プロジェクト審議に特化した臨時の TC 17 総会を 2026 年 5 月 19 日にリモート開催することが確認された。

また、**AWI TR 26176** 制定プロジェクトに参画することを目的に、米国が〇メンバーとして TC 17 に再加入したことが確認された。

4.3 ISO/TC 17/SC 4 再構築

TC 17 幹事及びドイツ委員から、欧洲の業界再編に伴う SC 4（熱処理鋼・合金鋼）の再構築の状況が報告され、内容が確認された。内容は、従来の SC 4 の活動範囲のうち、ステンレス鋼・耐熱鋼・バルブ用鋼を除外して、新たに SC 22（ステンレス鋼）を設立するものである。

現在、TC 17 で SC 4 スコープ見直し及び SC 22 設立が承認された段階であり、今後、TMB で SC 22 設立についての TC 17 議決の批准、及び SC 22 幹事国（中国・イラン・韓国・スウェーデンが立候補）が行われることが確認された。

4.4 TC 17 からのリエゾン関係の見直し

TC 17 幹事から、TC 17 からのリエゾン関係の見直しについて、前回 AG 会議からの進捗として、5 委員会の取り扱いをそれぞれ関連する SC に委ねて、TC 17 からのリエゾン関係は解消したことが報告された。

見直し対象となっている残りの 8 委員会の取り扱いについて審議した結果、次のとおりとする方針を確認し、TC 17 で必要な CIB を進めることができた。

- **TC 5（金属管及び管継手）** 引き続き、TC 17 からのリエゾン関係を維持し、Ms. Jie Hou (TC 17 中国代表委員、TC 5 議長) をリエゾンオフィサーに任命する。
- **TC 79（軽金属及び同合金）、TC 119（粉末冶金合金及び製品）、TC 119/SC 2 [同/金属粉末のサンプリング及び試験方法(超硬合金用粉末を含む)]** TC 17 からのリエゾン関係は不要と判断して TC 17 からのリエゾン関係は解消する。
- **TC 11（ボイラー及び圧力容器）、TC 111（丸鋼製リンクチェーン、チェーンスリング、構成要素部品及び付属品）、TC 135（非破壊試験）、TC 213（製品の寸法・形状の仕様 及び評価）** 取り扱いをそれぞれ、SC 10（圧力用鋼）、SC 3（構造用鋼）、SC 7 [試験方法(機械試験及び 化学分析は除く)]・SC 19（圧力鋼管の技術的取引 条件）、SC 20（サンプリング及び 機械試験方法）に委ねて、TC 17 からのリエゾン関係は解消する。

4.5 TC 17 の SBP の見直し

TC 17 幹事から、TC 17 の SBP 見直しについて、ISO/CS との調整結果が報告され、内容が確認された。審議の結果、近日中に新書式に基づく 3 年毎の見直しが要求事項となる予定であることから、新書式で SBP を全面改訂し、記載内容は Worldsteel association が発行している文書類を引用していく方針が確認された。

4.6 SC 15 の課題への対応

SC 15 幹事から、TC 269（鉄道分野）リエゾンオフィサー及び一部の SC 15 委員（オーストリア・フランス・ポルトガル）からの提案（SC 15 の保有する全ての規格の TC 269 への移管及び SC 15 の解散）についての対応状況が報告され、内容が確認された。

対して AG 中国委員から、“鉄鋼製品についての標準化はあくまで TC 17 が責任を負うべきであり、それを利用者側の委員会に委ねていくと TC 17 そのものの存在意義が棄損される恐れがあり、TC 17 全体の問題として取り扱うべき。”との意見が、AG ドイツ委員から、“今回の指摘は SC 15 の活動が停滞していることにも原因がある。積極的に規格開発を進めていくべき。”との

意見が出された。

審議の結果、規格移管提案については SC 15 で審議すべき内容であるとともに、SC 15 で積極的に規格開発していくことを TC 17 が支援していくことが確認された。

なお、11月 25 日の SC 15 国際会議で古い規格の改訂提案が行われる予定である。

4.7 次回の ISO/TC 17/AG 国際会議

第 16 回 ISO/TC 17/AG 国際会議は、2026 年 10 月 20 日にストックホルムでハイブリッド会議として開催されることが確認された。

(文責：玉田)